

第2回 浜松医療センター新病院建設構想検討委員会

(1) 新病院の基本的事項

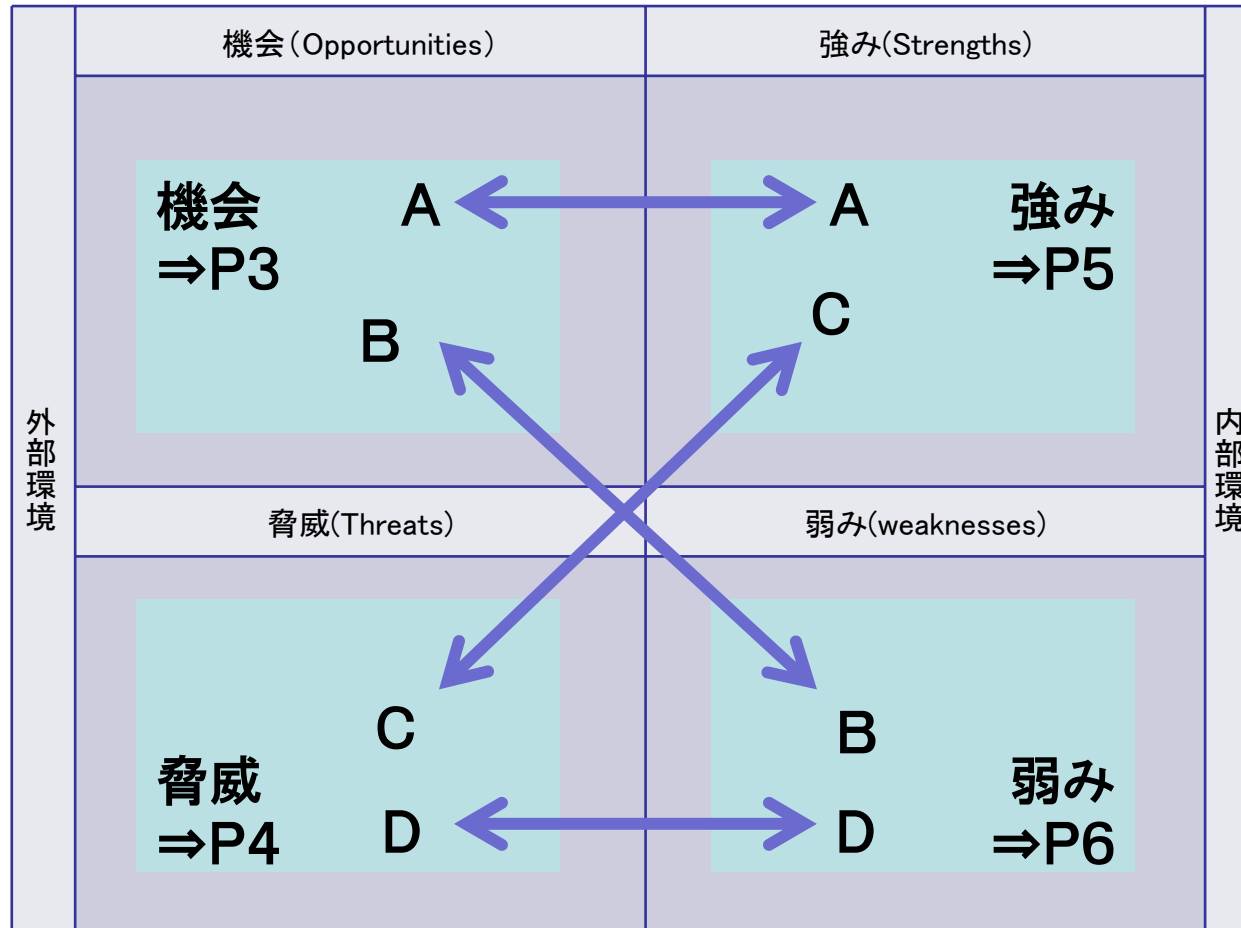
① 浜松医療センターを取り巻く環境の調査・分析

- 1) SWOT分析の見方
- 2) 機会 (Opportunities)
- 3) 脅威 (Threats)
- 4) 強み (Strengths)
- 5) 弱み (Weaknesses)
- 6) まとめ: SWOT分析による整理

② 新病院の特徴付け

- 1) 地域における位置付け(提案)
- 2) 重点機能・分野(提案)
- 3) 重点機能・分野における経営的視点

① 浜松医療センターを取り巻く環境の調査・分析
1) SWOT分析の見方



A 機会 × 強み	「強み」によって「機会」を活かすために取り組むべきことは何か？
B 機会 × 弱み	「弱み」によって「機会」を逃さないために取り組むべきことは何か？
C 脅威 × 強み	「強み」によって「脅威」を回避するために取り組むべきことは何か？
D 脅威 × 弱み	「弱み」と「脅威」による最悪の結果を回避するために取り組むべきことは何か？

※以降P3～6において「機会」「脅威」「強み」「弱み」を整理

① 浜松医療センターを取り巻く環境の調査・分析

2) 機会 (Opportunities)

※機会＝目標達成に貢献する外部環境の特質

	機 会	関連データ
外部環境	【患者の流入・流出】 ➤ 他の医療圏への流出がほぼなく、浜松市内で医療提供が完結	資料編P2
	【将来推計患者数】 ➤ 総数は入院・外来ともに2025年まで増加傾向にあり、特に「循環器系」「悪性新生物(がん)」「筋骨格系」「消化器系」等の疾患が大きく増加	資料編P3～5
	【市内の主要死因】 ➤ 「がん」「心疾患」「脳血管疾患」で、全体の50%以上を占める	資料編P6
	【地域医療機関の意見】 ➤ 浜松医療センターに公的病院としての役割を期待しており、「救急医療」「脳血管疾患医療」「がん医療」に対して強く期待	資料編P28～31

① 浜松医療センターを取り巻く環境の調査・分析

3) 脅威 (Threats) ※脅威：目標達成の障害となる外部環境の特質

	脅 威	関連データ
外部環境	<p>【日本における2025年の病院の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 2025年に向けて、急性期病床は高度急性期、一般急性期、亜急性期等に区分され、それぞれ病床数も見直し(7対1病床は4割強削減) ➤ DPC I 群及びII 群を高度急性期病院として位置付け 	第1回 検討会資料1
	<p>【基準病床数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 西部医療圏では既存病床数が基準病床数を上回る状態 	資料編P7
	<p>【出生数・出生率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 出生数及び出生率はともに減少傾向 	資料編P8
	<p>【地域医療機関との競合環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 3次救急の実施病院の増加 ➤ 改築整備等による近隣病院の機能の強化・充実 	資料編P20

① 浜松医療センターを取り巻く環境の調査・分析

4) 強み (Strengths)

※強み：目標達成に貢献する浜松医療センターの特質

内部環境	強み	関連データ
	<p>【当院の地域における疾患別シェア率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「血液系(1位)」「小児系(1位)」「新生児系(2位)」「乳房系(2位)」「呼吸器系(2位)」「消化器系(2位)」「循環器系(2位)」が高い ➢ 循環器系疾患は、「急性心筋梗塞(2位)」「脳卒中(3位)」が高い ➢ がんは、「急性白血病(1位)」「骨軟部悪性腫瘍(1位)」「非ホジキンリンパ腫(1位)」「卵巣子宮がん(2位)」「膵臓・脾臓がん(2位)」「乳がん(2位)」が高い ➢ 筋骨格系疾患は、「股関節症(1位)」が高い 	<p>資料編P9～10</p> <p>資料編P11～12 資料編P13～14</p> <p>資料編P15～16</p>
	<p>【診療科別収益構造】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「脳神経外科」「整形外科」「呼吸器科」「消化器科」等は収益が高い 	<p>資料編P17～19</p>
	<p>【現病院における指定等(地域における役割)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 救命救急センター、地域周産期母子医療センター、がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、地域医療支援病院など、地域の基幹病院としての役割 	
	<p>【開放型7病院の比較】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 救急車搬送件数は2番目に多い(5,665件) ➢ 紹介率は最も高い(82.7%) ➢ 歯科口腔外科の外来患者数は最も多い 	<p>資料編P24 資料編P25</p>

① 浜松医療センターを取り巻く環境の調査・分析

5) 弱み (Weaknesses)

※弱み：目標達成の障害となる浜松医療センターの特質

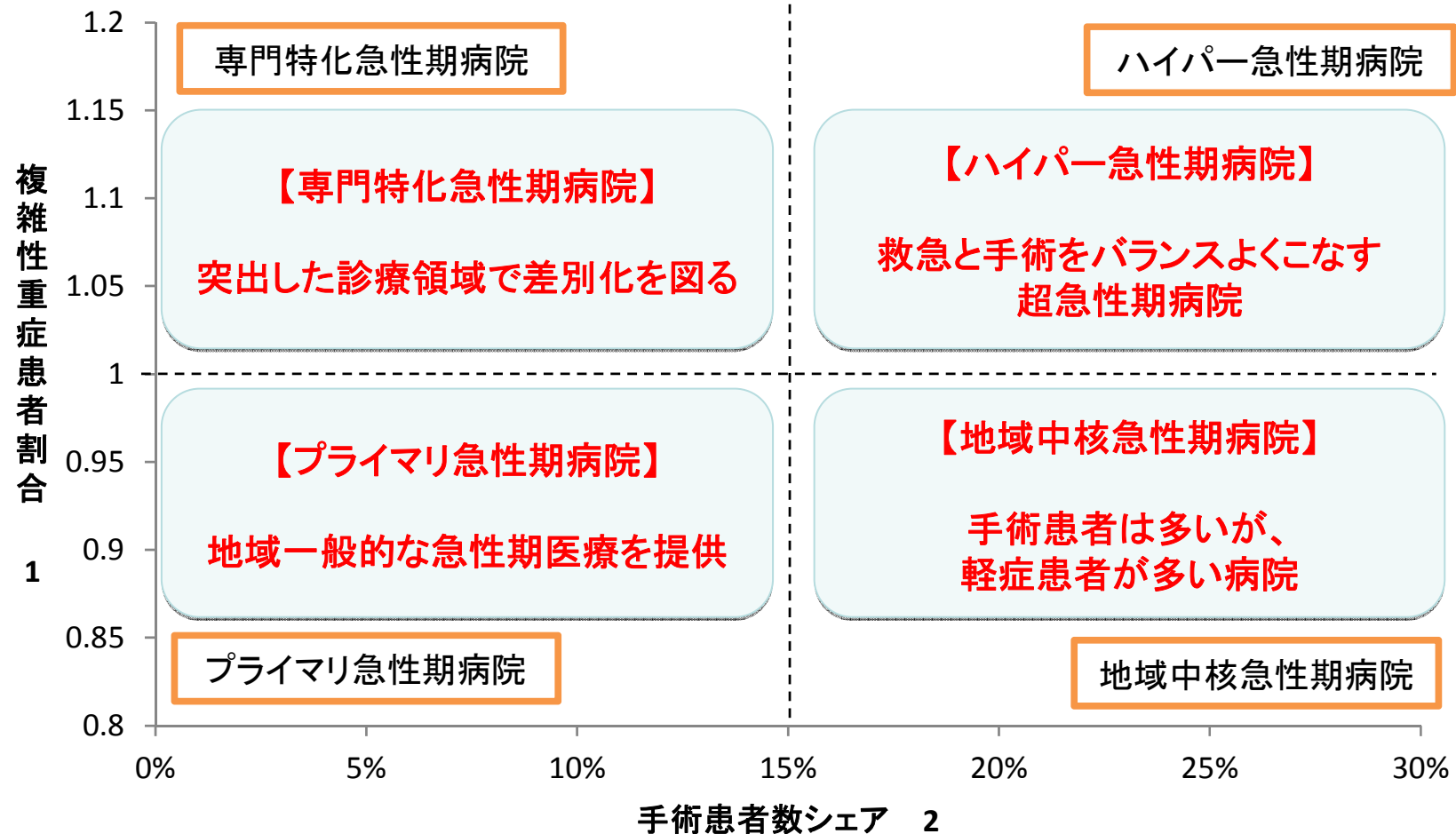
	弱み	関連データ
内部環境	<p>【当院の運営状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 当院の救急車搬送件数は、近隣病院の救急車搬送件数の増加により減少傾向 	資料編P20
	<p>【当院の地域における疾患別シェア率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ バースセンターの分娩件数は横ばい ➤ 全体の患者数が多い「胃がん」「大腸がん」のシェア率は、市内のがん拠点病院よりも低い 	資料編P22 資料編P13～14
	<p>【開放型7病院の比較】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 紹介率と比較して逆紹介率が低い 	資料編P25
	<p>【施設基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 特定入院料のうち一部が取得できていない 	資料編P26

① 浜松医療センターを取り巻く環境の調査・分析
6) まとめ：SWOT分析による整理

		内部環境	
		強み	弱み
外部環境	機会	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域の急性期医療を担う基幹病院として「救急医療・災害医療」を強化・充実 ➤ 脳血管疾患や心臓血管疾患を中心に「循環器系疾患医療」を強化・充実 ➤ 地域がん拠点病院として「がん医療」を強化・充実 ➤ 股関節再建(筋骨格系疾患)等の得意分野を充実 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 将来増加が見込まれる消化器系のがん(胃がん、大腸がん等)を中心に「がん医療」を強化・充実 ➤ 急性期病院として関連する施設基準の取得を検討 ➤ 病診連携を強化するために逆紹介を推進
	脅威	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域周産期母子医療センターとして「小児・周産期医療」を提供 ➤ 手術患者や重症患者をより多く受け入れ、急性期病院として高水準の医療を提供 ➤ 紹介率を維持・向上させ、効率的な病院運営を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「救急医療」においては、受け入れ体制の強化・充実 ➤ 「小児・周産期医療」は、将来的な患者動向を踏まえて機能や規模を設定

② 新病院の特徴付け(提案)

1) 地域における位置付け (表の見方)

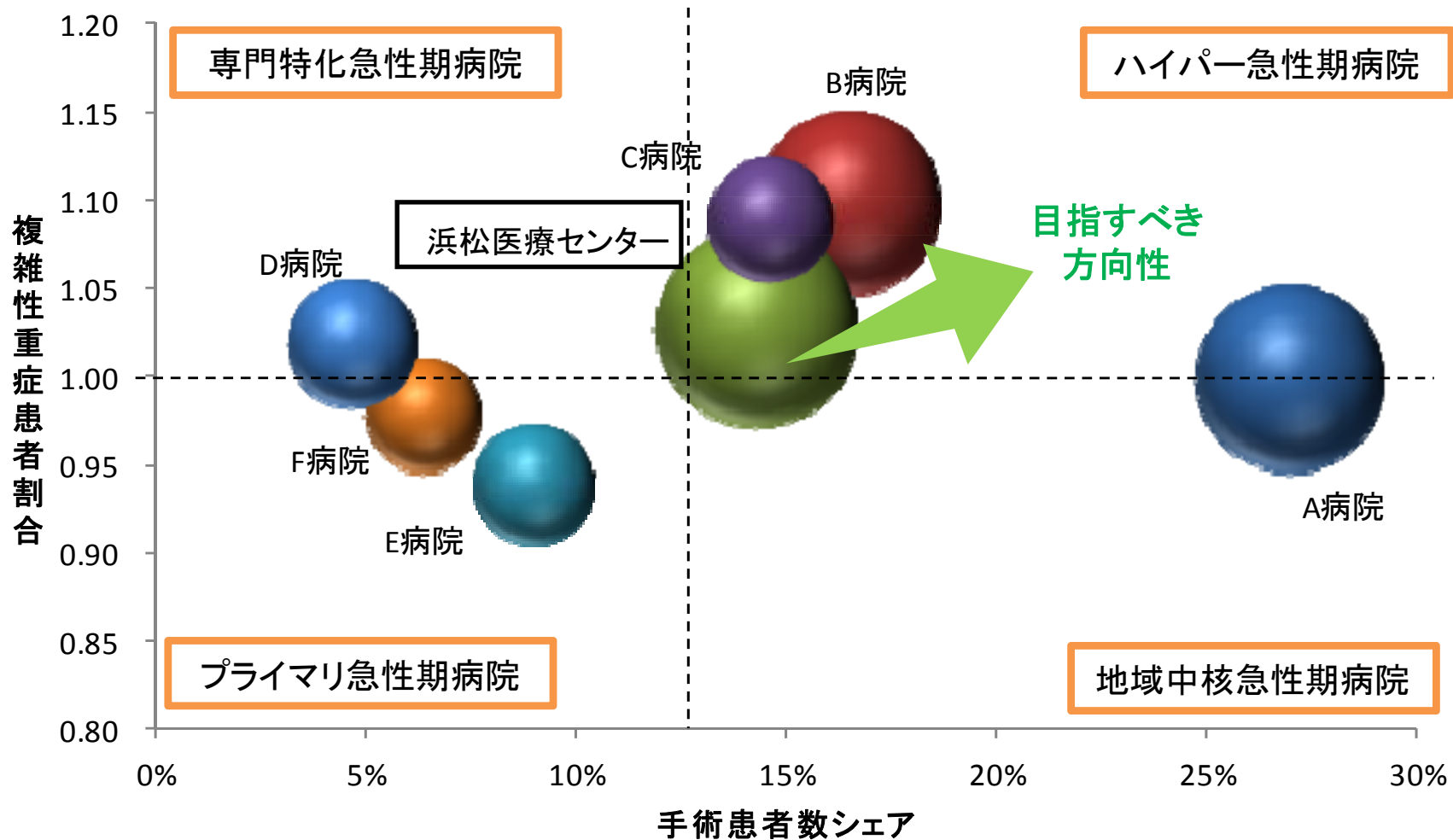


※1: 複雑性指数(縦軸): 数値が大きいほど、DPCにおいて治療に長期間を要する傷病の患者構成割合が多い(全国平均の場合は「1」)
一般的に複雑性指数が高いと重症患者の割合が高いことを示す

※2: 手術患者シェア(横軸): 当該地域におけるDPC参加病院の手術患者数割合

② 新病院の特徴付け
1) 地域における位置付け

提案



複雑性指数の全国平均値「1」と手術患者数シェアの平均を交点とする。

救急入院患者数(円の大きさ) : 医師が診察等の結果、緊急に入院が必要であると認めた患者数

出典: 厚生労働省第9回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会資料(平成23年度)、病院情報局ホームページ <http://hospia.jp/>

② 新病院の特徴付け
2) 重点機能・分野

新病院の果たすべき役割、機能(新病院構想から再掲)

高度・特殊・先端的医療への対応

救急

2次及び3次救急
の実施

4疾病

脳卒中、心筋梗塞、糖
尿病、がん医療の提供

小児

小児医療の充実

災害時

災害拠点病院

周産期

高リスク出産へ
の対応

人材育成

医療に関わる人材の育成に努める

地域連携

地域医療支援病院としての役割
オープンシステムを維持

政策的医療への対応

感染症

第二種感染症指定医
療機関

産科

周産期医療と連携

エイズ

エイズ治療の中心的な
役割を果たす

臓器
移植

臓器提供施設

- ② 新病院の特徴付け
2) 重点機能・分野

提案

1 救急・災害医療の強化・充実

- ① 重篤な救急患者への迅速かつ適切な対応
- ② 救急専門医や総合診療医の配置によるトリアージ機能の強化、
救急患者の受け入れ体制の充実
- ③ 災害拠点病院として、地震等に強い施設の整備並びに
24時間365日の災害医療への対応

- ② 新病院の特徴付け
2) 重点機能・分野

提案

2 循環器系疾患医療の強化・充実

- ① 脳梗塞や脳出血、急性心筋梗塞、大動脈瘤等の外科的治療や血管内治療、薬物治療の強化
- ② 呼吸管理、循環管理、栄養管理等の全身管理や合併症に対する入院治療の充実
- ③ 血液検査やCT・MRI等の画像検査、カテーテル検査などの検査及び処置の充実

- ② 新病院の特徴付け
2) 重点機能・分野

提案

3 がん医療の強化・充実

- ① 血液系がんとともに、今後増加する消化器系・呼吸器系のがんへの対応機能の強化
- ② 外科手術及び内視鏡手術、化学療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療の充実
- ③ 血液検査や画像診断などによる早期発見や確定診断の充実

② 新病院の特徴付け

3) 重点機能・分野に関する経営的視点

【収益を増加させるための取組み】

- ・ 高度急性期について、これまで以上に特定入院料を受けられる体制づくり
- ・ 経営貢献度の高い手術の強化
- ・ 股関節症等の収益性の高い得意分野の充実

【経営を圧迫しないための取組み】

- ・ 費用対効果を見据えた医療機器の導入
- ・ 適正で合理的な人員配置

【公的病院としての取組み】

- ・ 小児・周産期医療の確実な実施
- ・ 政策的医療の確実な提供
- ・ 他病院との役割分担による医療資源の効果的な活用